四月の家庭蔬菜園

大岩金

ぽか〳〵と暖かい日ざしを受けて冬中なほざり勝な畑の草が我顔に茂るやうになりました。今年こそは雜草は見つかり次第拔き取つて實を結ばせないやうに又早く夫々の播付、植付などを致しませう。既に誌上に述べました感のしないでもありませんが請はれますまゝに左に記述致します。

今回は自分の狹い貧弱な家庭生活に於て日常手近に作つておきたい蔬菜即ち新鮮なこと、一時の使用量少量で時々需用のあるものと、比較的土質を選ばないもの、管理の容易なもので女子供の栽培にも適するやうなもの數種類に就て記することに致します。

（一）チシヤ

チシヤには玉チシヤ、立チシヤ、搔チシヤがありますが最も多く用ひられますのは玉チシヤでありますからこの度は是を播くことにしませう。

種類は春播にありましてはビツグボストン種、エキジツトカールド種がよろしうございます。

種子を床又は鉢（箱でも結構）に播種する時は十日内外で發芽しますからこの時あまり込み合つて出た場合には二糎内外に間引更に本葉が四五枚出ました時に定植します。定植にも苗床同樣の床を作り基肥として二米平方につき堆肥二十瓩、油粕七百五十瓦、木灰五百五十瓦位を鋤き込み後地均しをして是に苗を株間二十糎をおいて植込みます。定植當時乾燥の心配のある所は株間に敷藁をし或は灌水に注意して濕氣を保たせる事につとめます。チシヤは元來冷凌な氣候を好むものでありますから春夏の栽培には品種の選擇は勿論でありますが發芽後の管理も出來る丈充分にして休みなく發育させ完全な結球をさせるやうにつとめなければなりません。

補肥としては活着後十日に一回位宛油粕の腐汁、或は硫酸アンモニヤ、又は智利硝石を水十八立につき百五十瓦の割に溶かしたものを施します。時局柄かゝる肥料は得難くはありませうがチシヤのやうな生食用類にはなるべく下肥はさけた方が安全であります。かやうにして播種後六七十日すれば結球しますから充分にかたまつた所で抽臺しない

うちに順次收穫致します。

(二)パセリ

是は家庭栽培としては大抵二三本あれば充分だと思ひますが縮れた葉の繁茂した狀は外觀もよろしいので少し多く播種しておきませう。

種子の發芽には相當日數を要し十日以上かゝります。尙乾燥してゐるやうな時には應々發芽をあやまることさへありますが一度發芽すれは後は栽培容易でありまして次のやうな注意に依ればよいのであります。

1、根は支根が少ないためなるべく早く定植すること。

2、春播は生育期が夏にかゝるによりあまり日當の强くない所に定植すること。

3、定植當時灌水に注意すること。

肥料としては定植後時々根本に薄い液肥を施せばよいのであります。パセリも前同樣生食する事もありますがチシャよりも丈が高くなりますので注意すれば葉にかけずにすみますから下肥を使用して差支へありません。

收穫は七月頃から秋まで續けられ尙冬にも收穫を望む場合には簡單な霜除をしてやることよいのであります。

次には直播してよいもののうちに比較的日蔭地にも育つものをあげませう。

(三)紫　蘇

普通栽培せられて居ります種類は二通であります。

イ、縮緬種

莖葉共に紅紫色をして居り漬物用卽ち梅干、生姜、チョロギなどの著色用として、又芽紫蘇として用ひられます。

ロ、綠縮緬

莖葉共に鮮綠色を呈し香氣が强いのであります。紫蘇卷用などに適します。

紫蘇の種子の外皮は大變硬いので一度乾燥しますとなかなかに發芽し難くなりまして春四月でも二三週間位の時日を要する事がありますが性質は極めて丈夫でありますからいづれの土質にもよく生育致します。それ故蔬菜園の壁、垣根等の近くで日照のあまりよくない又土壤もさほど肥沃でないやうな場所にも栽植出來ますものでありますから數本育てておけば重寶であります。又一年播種しますれば次年からは自然に落ちた種子が何處かに發芽しますからそれを適當な場所に移植すればよいのであります。

(四)茗　荷

半日蔭の地を好む蔬菜でありますから畑の一隅又は木の下などを利用してこの際古い地下莖を取り除き一株に二三芽をつけて植付けておきませう。

次には生育極めて旺盛な葉菜類をあげます。

(五)ツルナ

各地の海岸に自生さへして居りますもので蔬菜としてさほど注目されて居りませんでしたが最近ではラヂォなどでもその效用を放送して盛んにその栽培を進め市場にもかなり出るやうになりました。しかしこんなに栽培の雜作ないものがこれ程迄にと思はれるばかりの直段をもつて居ります。今年は是非各御家庭で作つて戴きませう。

種子は菠薐草の種子を大きくしたやうな角ばつた相當大粒なものでありますから子供にも容易に播種させられます。

土地は日照のよい肥沃な所であれば是にこした事はありませんがたとへ日蔭でありませうとも少々瘠地でありませうともかまひません。畦作りにします時は一米畦にして株間六十糎おきに二三粒宛を播き下します。十日前後で發芽し始めのうちは目立つ程の生育振も見ませんがかなりの大きさに達しますとそれらは大へんな勢で株を張り側芽を次から次へと伸ばして行きます。時々薄い下肥をかけてやればよいのでありますが後には空間なく茂り之さへも出來なくなります。

注意として苗を移植するやうな場合には根に支根が少ないためなるべく小さい時に行ふことであります。

收穫は六月頃から秋まで引續き行はれます。摘み取り方としては指で折れる程度の所でしたならば莖毎食べられますから芽先からその邊までの技を摘み取りますれば殘されました部分の側芽が又ずん〳〵伸びて行きます。效能としては胃腸の藥とか聞いて居ります。茹でてしたし物、煮付、お汁の實などに結構であります。

種子は澤山に落ちますから次年からは新に播く必要はありません。

その外土地がありませれば

(六)菜豆(インゲン)

矮性種のロングフェロー、マックバイ等がよろしいと思ひます。支柱の材料も手間も省けます。

是は播種後六七十日で收穫の出來ます發育の早い蔬菜であります。四月以後年内に三回位順次に播種しますれば長期にわたつて收穫する事が出來ますが連作はさけて次々と場所を變へ二三年休作する事が必要であります。

(七)枝豆

種類には早生枝豆、東京早生などがありまして後者は多く東京近在で作られて居ります。

基肥として草木灰、米糠等を少々入れて畦幅六十糎に株間、二十五糎位にして一株の植穴に二三粒宛播きます。後追肥を一二回、除草、中耕を行へばそれで充分であります。もし莖葉が徒長するやうでありますれば蔕の先端を摘んで成長を抑制してやる必要があります。

収穫は六月の中旬から出來ます。

(八)馬鈴薯

關東地方の普通の植付時は三月上中旬でありますがまだ四月に入つてからでも差支へはありません。七月頃の薯堀りは子供ばかりではなく大人でもたのしいものであります。

お約束の頁數を越えましたので左に栽培法を略記致します。

1、種薯は七十瓦位のものは縦に二つ切にしてその斷面に灰を塗つて防腐する。あまり大きいのも小さぎるのもよくない。芽は伸びてゐないものの方がよい。

2、切つた薯はなるべく早く植付けること。

3、基肥として堆肥、米糠、灰等を入れておけば一層よい。

4、畦幅六十糎株間四十五糎位にする。

5、薯は切口を下に向け肥料には直接觸れぬやうに土を覆ふた上におくこと。薯の上の覆土は十糎内外とする。

6、發芽したら稀い液肥をやる。

7、芽が十糎内外に伸びた時一株から數本出てゐるやうであればその中丈夫なもの一二本を殘して他は根本から取り除く。

8、成長と共に地下に薯が出來て來るから常に是が地上に露出せぬやう中耕、除草とあはせて土寄を忘らぬやうにする。

9、蕾が出來たらなるべく早く摘み取ること。

10、追肥をこの間一二回すれば尙結構である。

11、七月上中旬になり地に少し割目が出來かけると丁度收穫によい時期であるから掘り上げる。

12、病害豫防として五月中旬から三四回ボルドー液の撒布をする。

(九)ヘチマ、レイシ

日蔭棚用として播種しておきませう。もう四月になつてからは苗床に播く必要なく適當な場所に直播してもよいのであります。ヘチマは後纖維を使用するために細長い種類よりも太くなる方をえらんだ方がよいと思ひます。

「空地を生かして綠地とせよ」と叫ばれてゐる現在の時勢に、少しの土地をも無駄にしておかず、何なりと植ゑて利用するやうに致したいものと切望して止みません。